

当たり前のように使っていたけどこんなにお金がかかっていたの!?

# 熊本市上下水道局

## 安全安心な生活を10年後に残すために

### ～水道編～

#### 施設の老朽化対策と災害対策

##### 東部地区を中心とした主要施設の更新

熊本市で使用する水の約60%をまかなっている東部地区で老朽化が進む多くの水道施設・設備を更新します。

→ 約134億円

##### 老朽化した取水井の更新

熊本市の水道水をまかなう取水井98本のうち、40年以上が経過している老朽化した取水井を計画的に更新します。

→ 約20億円

##### 老朽化した滅菌施設の更新

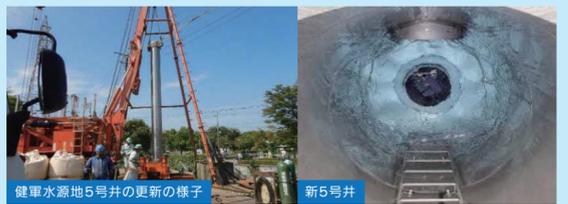
安全性を確保し、おいしさや損なわず水道水をお届けするための水質管理の強化を図ります。

→ 約2億円

##### 給水車での運搬給水効率化のため災害時充水拠点の機能強化

熊本地震の際、給水車への充水拠点が健康水源地1カ所だったため、渋滞により時間を要したことから、応急給水計画を見直し、小中学校に設置されている貯水機能付給水管を災害対策用として使用します。

→ 約2億円



#### 管路の老朽化対策と災害対策

##### 増大する老朽管の適切な更新の管理

熊本市の水道管の総延長、約3,500kmのうち、法定耐用年数である40年を超過した管路は約700km、法定耐用年数の1.5倍である60年を超過した管路約290km。適切な維持管理による施設や管路の長寿命化を図りつつ、老朽度や重要度などに基づいて更新の優先順位を付け、計画的な整備を実施します。

##### 災害に備える耐震化・二重化基幹管路の整備・更新

地震災害に対する水道管路網の安全性や信頼性を表す指標である「耐震適合性」を有する基幹管路の割合は熊本市の場合79.6%(R2年度末)。政令指定都市平均より高い数値ですが、災害発生時の基幹管路への被害は広範囲に影響を及ぼすため、水道水をより安定的に供給できるよう、整備・更新を進めます。

##### 医療機関や災害対策本部など重要給水施設への管路を耐震化

厚生労働省によって災害時に給水が特に必要となる施設として位置づけられ優先して耐震化する方針が示されている「重要給水施設(主要な医療機関や災害対策本部など)」、「重要給水施設管路(そこに至る管路)」の耐震化を進めます。

合わせて 約185億円



# の未来プランって?

上下水道局が目指す「災害に強く安全安心な上下水道の確立」「水循環の保全」のための事業は多額の支出を伴いますが、お客さまからいただく水道料金や下水道使用料だけでなく、補助金などの有効活用やコスト削減に取り組み、計画的な経営に努めています。

令和2～11年度の事業計画を紹介します!!



### ～下水道編～

#### 災害対策

##### 避難所へ整備マンホールトイレ

避難所として指定されている下水道計画区域内の小中学校へマンホールトイレを整備し、避難所の衛生環境の向上に取り組みます。

→ 約11億円



##### 豪雨に備えた浸水への対策

都市化が進んだ地域に、短時間に集中した雨が降ると、排水設備の許容量を超え、道路冠水など都市型水害を引き起こします。下水道浸水対策計画に基づいて、シミュレーションや水理模型実験等により対策効果を検証したうえで計画・設計を行い、バイパス管や分水施設の設置など浸水対策を進めています。

→ 約95億円



##### 二次災害を防ぐ管路の耐震化

管路は、被災時における流下機能の確保やマンホール浮上による二次災害の防止のため、医療拠点と浄化センターをつなぐ管路や、緊急輸送路(主要国道等)に埋設された管路を優先し、管更生や継手の可とう管化、マンホールの浮上防止対策等に取り組みます。浄化センターやポンプ場は、維持管理従事者の安全確保や、処理機能・揚水機能の早期回復を目的として、耐震工事を計画的に実施します。

→ 約25億円



#### 老朽化対策

##### 老朽化を予測し費用を平準化

計画的な施設の更新を行うため、日頃から適切な点検調査を実施することにより、効率的かつ効果的な維持管理に取り組みとともに、長期的な視点で費用を平準化します。また、設備の更新の際は省エネ機器を積極的に導入するなど費用削減にも取り組みます。

→ 約269億円



#### 高度処理施設の導入

##### 海の水環境を守る水質改善装置

有明海等の水質改善を図るため、窒素やリンの排出量を減少させる高度処理施設の整備を進めます。施設整備にあたっては、施設能力や経済性の観点から東部浄化センターに高度処理機能を集約するとともに、国内でもあまり例のない大規模な膜分離装置を導入します。

→ 約147億円



#### 9月10日は「下水道の日」

9月10日(金)は「下水道の日」。立春から数えて220日にあたる9月10日頃は台風が多く「220日(にひゃくはつか)」と呼ばれています。そのことにちなんで、下水道の大きな役割のひとつである「浸水の防除」を念頭に定められました。下水道の日を機会に、下水道の役割や下水道の正しい使い方について考えてみませんか。



熊本市上下水道事業経営戦略について詳しくはコチラ

